

MONEY FOR PRESIDENT

高橋FPの 社長が知りたい お金の話

ファイナンシャル・プランナー
高橋 学



50歳。証券会社勤務を経て、ファイナンシャル・プランナーとして独立。証券会社時代から多くの経営者をクライアントに持ち、お金に関するアドバイスをを行っている。

ESGとSDGs

環境、社会、企業統治で企業を評価

こんにちは、高橋学です。元号が令和になって1カ月。新元号に、少し慣れたという人もいらっしゃるでしょう。今月は新時代の投資や経営の指針として、覚えておきたいキーワードをご紹介します。

まずはその1、ESG投資です。ESGは「Environment(環境)」「Social(社会)」「Governance(企業統治)」の頭文字を組み合わせた造語で、企業に投資する際、売上高や利益などの財務指標だけでなく、これら3つの評価も使って投資企業を選ぶ投資手法のこと(図表1参照)。根底には、今後企業が持続的に発展していくためには、ESG課題への取り組みが欠かせないとの考えがあります。

ESG投資が拡大するきっかけとなったのは、2006年、国連が機関投資家に対し、ESGを投資プロセスに組み入れる「責任投資原則(PRI)」を提唱したこと。日本では、2017年、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)がESG投資に乗り出したことで関心が高まり、最近では、個人投資家の間でも話題になることが増えています。

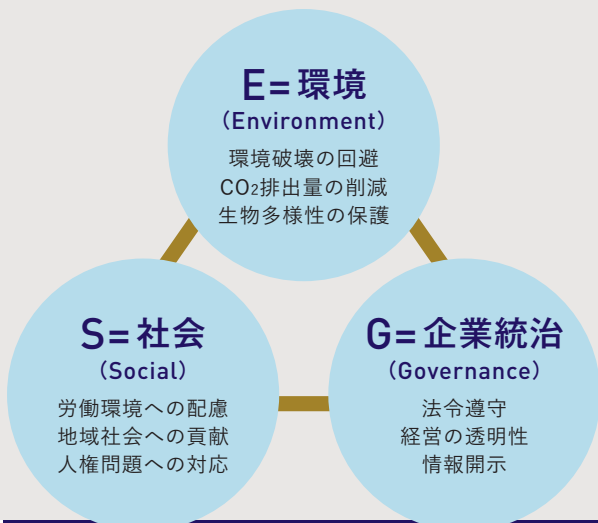
持続可能な開発目標

ESG投資とともに、最近よく聞く言葉としてSDGs(エス・ディー・ジーズ)があります。これが2つ目のキーワードで、今後の企業経営を考えるヒントとして注目を集めています。

SDGsは「Sustainable Development Goals」を縮めたもので、2015年の国連サミットにおいて世界193カ国が採択した「持続可能な開発目標」のこと。「貧困をなくそう」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「平和と公正をすべての人に」など、2030年までに解決すべき17の目標(図表2参照)と169項目の達成基準(ターゲット)からなりますが、SDGsが定める目標やターゲットを自社の経営戦略に連動させる企業が増えています。

ESG投資とSDGsに共通する問題として、「企業と社会の持続可能性の両立」が挙げられます。企業が利益を追求するのは当然ですが、今後、それだけでは不十分かもしれません。「企業は何のためにあるのか?」——。令和の始まりに、今一度考えてみてはいかがでしょうか。 **M**

■ 図表1 ESG投資の主な評価項目



■ 図表2 SDGs 2030年を年限とする17の国際目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	

(出典)国連の資料をもとに当社作成